

北海道のすすめる木育と「木育ファミリー」

網走東部森づくりセンター普及課 根井三貴

はじめに

近年、世界的な木材需給の変動や、日本国内における森林整備の必要性などの観点から、地域材の利用促進を訴える普及啓発活動が盛んに行われています。これらの取組は、地材地消や森林環境教育といった言葉で表されていますが、新たに「木育」という言葉も取り上げられるようになってきました。本報告では、これまで木育を進めてきた北海道行政と民間団体の取組の一部を紹介します。

木育の誕生

木育は、北海道の協働型政策検討システム推進事業「木育推進プロジェクト」の中で生まれた言葉です。このプロジェクトは、行政、教育関係者、木工家や企業、自然体験活動を実施するNPO法人など多様な立場の人から構成されており、その目的は新たな概念である木育の定義づくりでした。この木育推進プロジェクトで「木育とは、子どもをはじめとするすべての人が木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森のことを主体的に考えられる豊かな心を育むこと」と定義しています。

木育の背景には二つの側面があります。一つ目は、森林・木材を巡る認識と現状です。木材は再生可能な資源であり、温室効果ガスである二酸化炭素を増加さ

せない、加工に必要なエネルギーが少ないなど優れた特徴を持っています。木材資源を循環させて使うことは環境にかける負荷が少ないとえますが、木材利用の意義は十分に理解されているとは言いがたく、木材や森林に関する正しい情報を広めていくことが求められます。

二つ目はくらしを取り巻く環境の変化です。木材は、人々の生活の中の様々な場面で用いられており、欠かせない資源ですが、木材生産の現場は一部の人たちを除き日常生活から切り離されており、木は身近なものとして認識されていません。人と木材のつながりが希薄になることは、木に関わる知識や技術、文化の衰退を招く恐れもあります。また、人の心のあり方が問われる昨今、感性や社会性を育む場が減少していることが問題となっています。プロジェクトでは、木とのふれあい、木を媒介にした人と人とのふれあいが感性・社会性を育むことを期待し、「木育」という言葉に込めています。これらのことから、木育は豊かな森づくりと心づくりが両輪となる取組といえます。

木育の展開方法は、「木とふれあう」「木に学ぶ」「木と生きる」の発展する3段階のプロセスで考えられます。

●「木とふれあう」取組

木にふれる機会を増やし、木のよさを感じるプロセス具体的な取組～木製遊具の普及、公共施設の木質化など

●「木に学ぶ」取組

木材や森林に関する知識、技術を身につけるプロセス具体的な取組～学習プログラムの開発と実施、ものづくり体験の場と機会の創出など

●「木と生きる」取組

家庭や地域、社会で木育を実践・継続するプロセス具体的な取組～木を生かしたライフスタイルの提案、コーディネーターの育成など

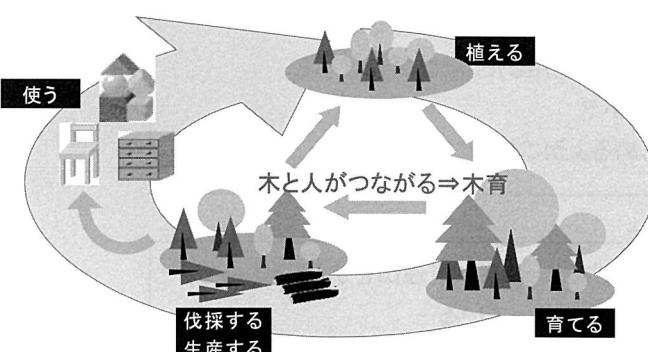


図1 木材資源循環のイメージ

プロジェクトでは、これらの理念と具体的な取組の提案を報告書にまとめ、知事に提出しました。この記録は「北海道の『木育』」のHPで公開されているので参考していただきたいと思います。

北海道で行われた施策

平成16年度の木育推進プロジェクト報告書を受けて、北海道では木育を普及するために様々な施策を行ってきています。

① 「わくわく！木育ランド」

平成17・18年度に実施された「わくわく！木育ランド」は、北海道が主催した木製遊具の巡回展示と講演会であり、木のおもちゃに触れてもらい、その良さを広めることが目的でした。木製遊具は西興部村にある屋内施設「木夢（こむ）」から借り受け、平成17年度は厚沢部町、札幌市、中標津町、北見市、登別市、帶広市の6箇所で、平成18年度は美瑛町、釧路市、白老町、福島町、美幌町、美唄市の6箇所でイベントを開催し、延べ21,313人の来場者を数えました。この取組は、木育という活動の普及に大きな役割を果たしたことに加え、アンケートの結果から木製遊具や遊戯施設へのニーズの高さを示すことになりました。「わくわく！木育ランド」は、19年度以降も市町村や各地域の事業主体が引き継ぐ形で続けられています。

② 「げんきの森」

平成17年度から全道で実施されています。親子で森林にふれあう場として各市町村に「げんきの森」を設置し、赤ちゃん誕生記念植樹や枝打ち体験などのワークショップを開催しています。



写真1 わくわく！木育ランド in 中標津

③ 木育地域活動ネットワーク支援事業

市町村、NPO、教育関係者、福祉関係者など複数の団体が広域的に連携・組織する協議会に対して、道が活動の支援を行います。民間による木育活動の一層の活発化とネットワークの拡大を目的としており、平成18～20年度の3カ年で、のべ13箇所の協議会が事業を実施しました。特に、別海町（別海町未来塾、木育を育てる84,000人の会）や、網走管内の市町村からなる「オホーツククラフト街道構想部会」などは継続して事業を行っており、地域に即したイベントを提供しています。

④ 木育人材バンク

森林や木材に関する知識が深く、木育に協力的な人材を登録し、様々な取組に活用する仕組みです。地域の講演会や体験イベントなどに、参加可能な人材を紹介し、インストラクター、アドバイザーとして活動し

図2 アンケートの設問と回答のまとめ(平成17年度)

北海道水産林務部林務局林業木材課提供

- Q.家庭や幼稚園など身近なところで、子どもが木のおもちゃに触れ親しめる場所は？
- Q.今までに、木のおもちゃを中心としたイベントや施設を利用したことは？
- Q.「わくわく！木育ランド」に参加して、いかがでしたか？
- Q.地域で子ども達が木のおもちゃともっと触れ親しめるようにするには？…他

- 幼稚園や家庭などの身近なところに木のおもちゃが少なく、わざわざ遠出をすることもある
- 木のおもちゃは子どもが喜ぶもの・いいものという認識を持っている
- 身近に木のおもちゃに触れ親しみ、遊ぶ機会や場所がほしい
- 遊具を選ぶポイントとして、価格面や維持管理が問題となる



ています。

⑤ わくわく木育通信

道が配信しているメールマガジンであり、登録者に木育に関する活動を行う団体やイベントを紹介しています。毎月第3木曜日に配信されています。

⑥ その他

北海道森林づくり基本計画は、平成14年度に制定され、19年度に見直しが行われました。新計画では新たに「木育」の章が設けられ、これにより木育の推進が道の重要な政策の一つに位置付けられました。具体的な活動主体は各地域の団体や市町村に推移してきていますが、木育を息の長い道民運動として推進するために、道行政の担う役割は大きいと思われます。

「木育ファミリー」の活動

「木育ファミリー」は、木育の趣旨に賛同する有志から組織された市民団体です。この組織は木育推進プロジェクトの元メンバーを中心となり、「木育をすすめる（進める・薦める）会」を経て、平成19年の4月から正式に「木育ファミリー」として会員を募り活動を始めました。活動の目的は、木育を民間の立場から草の根的活動として広めていくことであり、活動内容はパンフレットやHPによる情報発信、関連イベントへの協力などです。ファミリーの活動規模は大きくなっていますが、木と人、人と人とのつながりをキーワードに、参加者が楽しんで続けられる活動を目指しています。

① HPなどの情報発信

HPは活動紹介、入会案内、各種イベントの案内、



写真2 木育ファミリーの会員証(木のタマゴ)

事例紹介（あれも木育これも木育）、リレーエッセイなどで構成されています。また、道が配信するメールマガジン「わくわく！木育通信」の中で、ファミリーのコラムを載せ、情報を発信しています。

② 交流会の開催

木育に関連する取組を行う話題提供者を選定し、交流の機会を設けています。これまでには「君の椅子プロジェクト」の生みの親である旭川大学大学院教授の磯田憲一氏や、作家でありドイツの森林療法に関する知識の深い浜田久美子氏、札幌市で工房を構える木工家の国本貴文氏などを迎え、活動のお話を伺いました。また、森林散策や、マイスプーン作りなどの体験プログラムを提供しています。

③ 各種イベントへの協力

平成19年度北海道苫小牧市で行われた「全国植樹祭」や、「北の元気な森づくりシンポジウム」、「赤レン



写真3 全国植樹祭でのパネル展示



写真4 赤レンガ木育フォーラムでの展示

ガ木育フォーラムin北海道」、平成20年度の「北の大地の森林づくり展」、「レディースネットワーク・21フォーラム」など道が主催、共催する様々なイベントに協力し、木育をPRする展示や学習プログラムを実施しています。

④ 木育全国ミーティングの開催

木育全国ミーティングは、各地域で木育の活動を行っている人、また木育に関心がありこれから活動を担う人が集い、取組の魅力と可能性を語る場として開催されました。第1回は、平成19年3月に北海道札幌市で2日間の日程で開催されました。1日目は、冬山でのスノーシュートラベル、参加者が思い出の木を披露する自己紹介、各地での事例紹介、夜はスノーキャンドルと屋内キャンプファイヤーを行いました。2日目は、分科会での体験活動、「木育札幌宣言2008」の作成と宣言を行いました。

第2回は岐阜県にバトンを移し、平成21年1月に岐阜県立森林文化アカデミーで3日間の日程で開催されました。初日は講演会、2～3日目は「木」と「樹」をつなげる分科会を実施し、木製品ができるまでの体験活動を提供しました。第3回は未定ですが、今後も全国へのリレーがつながっていくことを願っています。

⑤ 「木育の本」の出版

平成20年10月に、木育の理念やこれまでの活動をとりまとめた「木育の本」が北海道出版社より発売されました。本書は、木育ファミリーの代表である煙山

泰子氏と同会員でノンフィクションライターの西川栄明氏の共著で、具体的な取組事例が掲載されています。生き生きとした人々の画像をふんだんに用いた構成が印象的な一冊となっています。

⑥ 木育活動拠点の創造に向けて

木育ファミリーでは現在、当別町で木育活動の拠点作りを進めています。今後、地域住民や森林ボランティアとも協力体制を築きながら、様々な活動の発信を目指しています。

おわりに

平成18年9月に閣議決定された森林・林業基本計画に「市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材のよさやその利用の意義を学ぶ『木育』ともいうべき木材利用に関する教育活動を推進する」とあり、国の取組の中でも木育が位置づけられました。この取組は、北海道から全国へと発信され、ますます広がっていくことが期待されます。木育を一過性の活動ではなく、国民運動として根付かせるためには、当初スタートしたとおり、行政、教育関係者、木材関係者など協働で進めていくべきと考えます。

林業・林産業の発展のためには、調査研究など科学的な裏づけや普及啓発活動から、木材の消費活動につながっていくことが必要となります。木育で訴える木の良さなどの情報や、ものづくりの楽しさなどを附加值として、木製品の販売効果を高めるより一層の工夫が求められます。木育という普及啓発活動が、林業・林産業の発展に寄与するものになることを期待しています。

参考資料

- 1) 平成16年度協働型政策検討システム推進事業報告書
「木育～木とふれあい、木に学び、木と生きる～」
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/mokuiku/H16_kiseki.htm
- 2) 木育ファミリー HPおよび運営委員会資料
<http://www.mokuiku.net/>

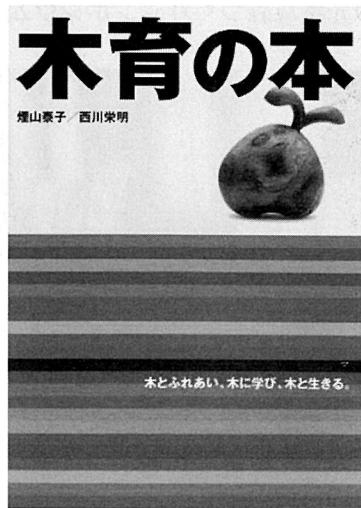


写真5 「木育の本」北海道新聞社(2008)